



青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町 2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL http://www.tonyamachi.com E-mail info@tonyamachi.com 発行/平成28年10月31日

公民連携による地方創生モデルを視察 公共施設等視察会

企画情報委員会(佐治委員長)が企画する公共施設等視察会が9月28日(水)に行われ、西理事長、柳谷副理事長をはじめ、組合員ら17名が参加した。

今回、視察に訪れたのは岩手県紫波町(しわちよう)。「オガールプロジェクト」と冠された紫波中央駅前には、地域の開発事業とその取り組みは、国の補助金に頼らない公民連携の地方創生モデルとして注目されている。



オガール広場



オガールプラザ

オガールベース

無人駅である紫波中央駅前には現在、「町庁舎」に加え、図書館、産直マルシェ、子育て応援センター、カフェ、貸スタ

ジオなどを備えた「オガールプラザ」、ホテルやバレーボール専用体育館を備える「オガールベース」、バーベキューなどを楽しめる「オガール広場」の分譲する住宅地「オガールタウン」、日本サッカー協会公認グラウンド「岩手県フットボールセンター」がある。盛岡市と花巻市の間に位置する人口約3万3千人あまりのこの町に、年間90万人を超える人が訪れ、視察も絶えない。

これまでの補助金をあてにした公共開発は、将来持続的に発生するランニングコストや稼働率の見積もりが甘い事業計画になり、空きテナントが目立つ建物ができ、結果的に維持管理費が財政負担となり失敗するケースが多い。

岡崎社長は、地域振興整備公団から建設省出向の経験もあり、行政経験と民間経験を併せ持つ人物。同氏は「敷地に価値なし、エリアに価値あり。どれだけ優れた建物を作っても、隣がゴミ屋敷であれば価値を損なう。エリア全体を考えたまちづくりが重要となり、デザインも重視。

が目立つ建物ができ、結果的に維持管理費が財政負担となり失敗するケースが多い。オガールプロジェクトでは公有地活用型PPP(Private Partnership)事業の企画段階から民間事業者が参加し、より幅広い範囲を民間に任せ、民間からの融資で施設を建設。計画の収益性は金融機関に厳しく審査された。入居テナントを先決、見込み収入を計算し、そこから逆算して建築・維持費を算出。施設をしっかりと運用して集客率を高め、そこから得る収益を税収として維持管理費に充て、実質の町負担をゼロにし、稼ぐインフラを実現した。



側溝泥上げ作業

組合では9月に、問屋町地区の側溝泥上げを実施した。以前から問屋町地区では、側溝の汚泥堆積が原因で排水に支障が出ていた。側溝の泥上げは、組合員に実施してもらうのが原則だが、蓋の老朽化や汚泥の詰まりにより、組合員が泥上げをすることが困難な状況であった。

問屋町地区の側溝泥上げ作業を実施



講演する岡崎社長

また普遍的なまちづくりの手順として「①消費活動を目的とし、②人を集める③人が集まればその集まった人を対象としたサービスが発生。また、サービスを提供する人が集まる④人が集まり、サービスが始まればエリアに活気が生まれ、更に人が集まり、サービス産業が興り、雇用が生まれる⑤エリアに活気が生まれる⑥エリアに行きたい、住みたいと思う人が増え、不動産価値が上昇⑦その結果、固定資産税と住民税は増加し、福祉・教育などの現場で活用できる資金が増える」と説明。これまで各地で行われてきた

商業を中心に据えた中心市街地活性化に異を唱えた。現在、同プロジェクトでは民間の保育園も建設中。同施設では保育園に加え、小児科、病児保育も備え、この3つが揃う保育施設は日本初となります。ますますの活性化が期待される。

**問屋町ゴールドカード10周年記念
キャンペーンの実施など承認
第6回理事会**

第6回理事会が9月26日(月)に開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

また事務局からは、問屋町健やか隊員育成研修、第2回問屋町若手従業員親睦交流会の参加状況。また、第4回問屋町防災訓練や問屋町幹線道路の街路灯取替工事などについて報告を行った。

主な案件審議は次のとおり
案件一 事業委員会からの意見について
案件二 労務対策委員会からの意見について
案件三 環境対策委員会からの意見について

**第3回合同交流会
同友会・青友会**

青森問屋町経営同友会(同友会)と問屋町支店長・所長連絡会(青友会)の合同交流会が9月29日(木)、ホテル青森で開催された。交流会には両会会員及び事務局職員合わせて54名が参加した。

合同交流会は、組合員の若手経営者および後継者で組織される同友会と、問屋町内の支店、営業所の団地内責任者で組織される青友会との親睦交流を目的に、26年からスタート。今回が3回目の開催となった。

同友会の西中会長と青友会の前田会長によるあいさつの後、青友会の佐々木副会長に



合同交流会

案件四 賃貸組合員の脱退について
案件五 組合施設の賃貸並びに新規組合員加入承認について
案件六 関係先出資金の処理について
案件七 組合創立50周年記念事業について
案件八 組合員跡地買取資金の借換及びつなぎ資金の借入について
案件九 役員退職慰労金の支給について
案件十 新年会の開催について
案件十一 平成28年度第7回理事会の日程等について



合同ゴルフコンペ

よる乾杯の音頭で懇親会がスタート。懇親会では、恒例の参加者全員による1分間スピーチでお互いを知り、その後の会話に花を咲かせるのに一役買った。

また、9月10日(土)には、16回目となる両会合同のゴルフコンペが青森カントリー倶楽部で開催された。

初参加5名を含む32名が8組に分かれラウンド。1打ごとに一喜一憂しながら楽しんで。今回は、(株)RAB企画の鷲尾常務が初優勝を飾り、ベストクロス賞は鷲尾常務と(株)

**団地内の従業員交流を促す
若手従業員親睦交流会**

9月16日(金)の午後7時からホテル青森において、第2回若手従業員親睦交流会が開催された。同交流会には、20代から40代の組合員従業員ら30名が参加した。

同交流会は、問屋町で働く若手従業員同士が、企業の垣根を越えて積極的に交流することを目的に昨年初めて開催。参加者からも大変好評で、今後も定期的に開催して欲しいとの要望を受け、今回、2回目の開催となった。

交流会では、参加者全員が「私、実は○○なんです」をテーマに自己紹介スピーチを

実施。参加者から意外な○○が続出し、驚嘆の声が会場内に沸き上がった。

その後は、より多くの参加者と交流できるよう、2回の席替えが行われ、スピーチ内容をネタに各テーブルは大盛り上がりとなっていた。

組合では29年2月にも若手従業員親睦交流会を開催。今年後年2回実施していく計画で、団地内従業員の交流を促す。

秋の味覚を家族で満喫
フルーツバイキング

青森問屋町経営同友会受託事業であるフルーツバイキングが、9月22日(木・祝)に青森観光りんご園で開催された。今年も青森市勤労者互助会との共催で行われ、67名が参加した。

同イベントは今年で3年目の開催となり、お子さん連れご家族での参加が多く、非常に好評を得ている。



若手従業員親睦交流会①



若手従業員親睦交流会②



フルーツバイキング

当日は、園内のリンゴやナシなどの果物が食べ放題のほか、果物を1kgちょうどのように収穫するゲームも実施。昼食は、青森県産のお肉や旬の野菜のバーベキューが提供され、参加者は秋の味覚でお腹をいっぱいにし、休日を満喫していた。

かねへい食品株式会社

代表取締役社長 齊藤 諭

青森市問屋町二丁目18-11 TEL (017) 738-4341

正確に！迅速に！
【ホットなコミュニケーション】

小電力業務連絡無線は、工事現場、各種イベント会場、そして遊園地や球場などのレジャー施設などで幅広く活用できるコンパクトサイズ。作業中でも両手を使わず操作ができ、高度な機能をフル装備のすぐれもの！
“一般業務用無線、防災行政用無線、その他通信関連機器取扱い”

株式会社 東 晴

代表取締役 雪田 清紀

〒030-0113 青森市第二問屋町三丁目2-6
TEL 017-739-7088 FAX 017-739-3513

問屋町たんしん

業務報告

①第40回問屋町ボウリング大会
日時 11月18日(金)
午後7時～9時

場所 アオモリボウル
(青森市安方)

※今年度から会場が変更となりました。

参加料 1人1,800円
定員 90名

②フラワーアレンジメント教室
日時 11月22日(火)
午後6時30分～8時

場所 問屋町会館

参加料 1人500円
定員 20名 ※男性限定

主要事項

9月

6日▽中央会地区別懇談会
7日▽青森市勤労者互助会連
営委員会

8日▽第6回問屋町合同清掃
▽全国卸商業団地協同組
合連合会第1回全国事務
局長会議(9日)

10日▽青友会・同友会第16回
合同ゴルフコンペ

12日▽青森県雇用安定創出対
策本部

13日▽労働基準協会第1回労
務管理講習会

14日▽問屋町健やか隊員育成
研修

15日▽善知鳥神社例大祭
16日▽金融審査会
▽第2回若手従業員親睦
交流会

20日▽第3回環境対策委員会
21日▽第3回労務対策委員会
22日▽フルーツバイキング
25日▽第3回緑のボランティア
ア隊

26日▽第6回理事會
▽青森問屋町配送(株)第2
回取締役会

27日▽安協問屋町支部第3回
街頭指導

28日▽公共施設等視察会
▽県中小企業組合士会理
事會・総会

29日▽元気都市あおもり健康
アツプ推進会議職域健康

づくり部会
▽同友会・青友会第3回
合同交流会

問屋町
ビジネススクール

7日▽販売戦略(戦略編)

8日▽Y's CLUB③
13日▽総務管理の基礎の基礎
(コストダウン編)①

14日▽商業簿記3級取得講座②
(コストダウン編)②

15日▽総務管理の基礎の基礎
(コストダウン編)③

21日▽商業簿記3級取得講座③
27日▽チームの力引き出し方①
28日▽商業簿記3級取得講座④
29日▽チームの力引き出し方②

組合50年の歩み
第1回

29年10月に組合創立50周年を
迎えるにあたり、今号から10回
にわたり、これまでの50年を振
り返る。

「組合の誕生と共同事業①」
【昭和42年～51年】

高度経済成長期の真つ只中の
昭和30年代、青森市の経済も急
成長していた。当時の中小卸売
業者は、ほとんどが現在の本町
や安方エリアの中心市街地に店
舗・倉庫を構えていた。業務の
急拡大による倉庫や駐車場不足
に頭を悩ませていたが、市街地
には拡張しようも土地が十分
になく、深刻な交通渋滞も日常
茶飯事だった。
このような状態は全国的に発

生しており、その対応策として、
昭和38年、国は郊外への卸団地建
設を助成する制度を創設。これを
受け、全国的に卸団地建設が一
気に進められていった。
青森市においては、以前から卸
売業者の近代化を志していた、青
森商工会議所副会頭で、(株)角弘の
代表取締役であった後藤栄一郎氏
が中心となり、市内の卸売業者に
卸団地への移転を呼びかけた。
後藤氏らの熱心な勧誘活動が実
を結び、42社もの卸売業者から賛
同を得ることができた。そして昭
和42年10月23日、青森県商工会館
において設立総会が開かれ、協同
組合青森総合卸センターを設立。
初代理事長には後藤氏が選任され

そこから組合としての業務が正
式にスタートし、初めに卸団地の
建設用地の選定に着手した。この
用地選定と買収には、青森市の全
面協力を得ることができた。候補
地は、荒川、幸畑、原別、妙見の4
地区に絞られ、将来の道路計画等
を加味して妙見地区に決定した。
用地買収では、100件を超える
地権者と粘り強く交渉を行い、昭
和43年2月には、予定していた用
地全ての契約を終えることができ
た。
昭和43年6月には中小企業振興
事業団から高度化資金の貸付内示
と卸商業団地の指定を受け、東北
で2番目となる卸団地建設に着手
することになった。
当時の妙見地区は水田が主で、
これを盛土し整地するところから
取り掛かった。その後、道路、下
水道、防犯灯、汚水処理場建設工
事などが急ピッチで行われ、昭和
44年10月に、計画どおり造成工事
が完成した。
建築協定の制定、区画割の決定
を経て、昭和44年9月からは、い
よいよ組合員社屋の建築が始ま
った。同年11月には組合員第1号



団地造成時

となる(株)丸吉の社屋が完成。昭
和45年度には初期に計画してい
た組合員が建築を終え、卸団地
での営業を開始した。
昭和44年には、一般公募によ
り町名が「問屋町(とんやま
ち)」に決定。しかし当時は俗
称であり、正式な住居表示と認
められたのは昭和57年11月で
あった。(つづく)

KOSEKI コセキ株式会社
【事業内容】
●医療機器・システム・ネットワークの提案・販売・施工・メンテナンス
●情報・映像システム等企画・提案設計・施工・メンテナンス
●各種イベント・展示会での映像・音響機材のレンタル
青森営業所:青森市問屋町2丁目20番5号 TEL:(017)738-4506
http://www.koseki.co.jp

SUNPOT サンポット株式会社
家庭用ストーブから大規模施設暖房システムまで環境対応型総合暖房機器メーカー
青森営業所 青森市問屋町2丁目18番18号 〒030-0131
TEL(017)738-4141 FAX(017)738-5354
URL:http://www.sunpot.co.jp/

旅行や出張にうれしい宿泊パックのお申込みは
共和トラベル株式会社
青森市東造道二丁目3番14号
TEL 017(736)2266
FAX 017(736)5522
青森県知事登録第3-83号 総合旅行業務取扱管理者 成田浩二

営業品目
■パンフレット・ポスター・チラシ・ダイレクトメール・カタログ・カレンダー等
■チケット・商品券・証券等
■プログラム・記念誌・報告書・資料集・新聞・社内報等
■コンピューター用帳票類・一般事務用帳票類等
■各種封筒・案内状・挨拶状・名刺等
■オンデマンド印刷等
■Win・Mac各種データ作成・変換等
総合印刷 株式会社 誠五社
〒030-0113 青森市第二問屋町三丁目3番18号
TEL(017)729-1611(代)
FAX(017)729-1188

職場の健康づくり
リーダー育成
問屋町健やか隊員育成研修

組合では健康事業の一環として「問屋町健やか隊員育成研修」を9月14日(水)に問屋町会館で開催した。

当研修は青森県医師会の健やか力推進センターの協力のもと、健康に関する確かな知識と健康づくりの実践方法を身につけるプログラムを提供し、職場における健康づくりのリーダー(健やか隊員)育成を目的に開催。組合員従業員30人が参加し、午前9時から午後4時30分までの長時間にわたり、健康に対する理解を深めるべく、熱心に受講した。研修は、生活習慣病、メタ



ゴムチューブを使った運動

ボリックシンドローム、認知症やロコモティブシンドローム(運動器の衰え・障害)によって要介護になるリスクが高まる状態)についての健康教養講義や、実際に健康・体力測定を体験し、測定結果の見方についての解説、ウォーキングやゴムチューブを使ったトレーニングなどの運動実習も

行われた。そのほか、栄養講義では理想的な食事の摂取量や組合せを学び、昼食に486kcal、塩分相当1・97gに抑えた健康弁当を試食。参加者は量の少なさや味の薄さに驚き、日頃のカロリーや塩分摂取量の多さを実感した。研修の締めくくりには、グループに分かれてワークシヨップを実施。「1日1万歩以上歩くためにどうするか」をテーマに話し合われ、最後に各グループが発表。組合の藤本専務、健やか力推進センターの中路センター長が講評した。中路センター長は「健康づくりは一人では続かない。仲間と一緒に競い合いながら行うことが長く続く秘訣」と



グループでのワークシヨップ

まとめた。全プログラム終了後、中路センター長より受講者を代表して(株)角弘の月永副社長に修了証が手渡された。参加者は「今回の研修で学んだことを他の社員にも伝え、会社ぐるみで健康づくりに取り組みたい」と話した。

団地企業訪問

今回の団地企業訪問は、(株)金入青森支店の石戸谷支店長にお話を伺った。

同社は昭和22年6月に設立し、コンピュータ及び周辺機器、コピー機、プリンター等のOA機器の販売・メンテナンスから、各種オフィス用品の販売まで幅広く商品を取り扱っており、県内に5つの支店・営業所を構えている。

「当社では『良い仕事は、良いオフィス環境から』をテーマに、地域のお客様に豊かな生活を提案できる文化のトータルプランナーとして日々の営業に取り組んでいます。小売書店は県内に

3店舗あり、専門店ならではの最新家具やおすすめのアイテムを多数取り揃えています。また、『東北』が持っている熟成された地域性や個性を発信していく場である『東北スタンダードマーケット』は、八戸、仙台2店舗、盛岡、東京の計5店舗を出店しており、東北の工芸・民芸品・食品に加え、工芸家やアーティストと共に作り上げたオリジナル製品の販売も行っています。東北のこともっと知ってほしい、もっと伝えたいという思いを具現化するため積極的に県外にも進出しています」とアピール。



金入 支店長 石戸谷 正彦氏

「景気回復の実感が乏しい中、お業界の状況について尋ねると、「趣味はガーデニングです。妻も

客さまのコスト削減意識も高く、新しい物への切り替えが難しくなってきています。営業マンの提案力がより重要となってきており、お客さまと深く話し合うことで距離を縮め、先を見据えた形で問題の解決に取り組んでいけるよう努力しています。また、新しい商品が続き々と登場してきているので、その情報をいち早くお客様に届け、様々な形で提案ができるよう社員一同これまでのノウハウを生かし、メーカーの力を借りながら一緒に頑張っています」と力強い。プライベートに話が及ぶと、「趣味はガーデニングです。妻も

(54歳)

編集後記

今回のオガール視察は大変得るもの大きい公共施設視察会でした。一面と重複を避けこの編集後記でも補足報告をさせていただきます。今回の視察は、青森市の街づくり

に取組んでいる西理事長からのサゼッションによるものでした。▼岩手県の紫波町に凄い街づくりをしている人がいる。最初、人が集まる図書館建設から始め、次にバレーボール専用体育館を作り、全国からバレー選手が合宿に来ている。施設運営は黒字。その人は元建設省の役人だそう。云々▼その人とは、岡崎正信氏。岡崎氏は、前にこの編集後記でご紹介した『稼ぐまちが地方を変える』の木下齊氏と並ぶ日本を代表する「街づくり」の実践家といっているいい方です。▼岡崎氏は説明し「公民連携をやる上で問題になるのが行政側の怠慢。アメリカでは行政側が行政経験のある人間をエージェントとしてそのプロジェクトに、行政側の代理人として、民間と交渉しながら進めていくという公民連携です」▼氏は自分の立ち位置をそのエージェントとし、これと似て非なるものとして日本のコンサルトをあげています▼エージェントは成果を求められるが、コンサルトは結果を求められない▼岡崎氏は自分がかつて建設省で進めてきた「中心市街地活性化法」の街づくりの方法論と逆の現在の手法にこそ成功のカギがあるとしています▼この補足報告は続きます。また「会社の業績は社員の健康状態で9割決まる」についてはオガール以降にご紹介します(藤本)



株式会社 技研

技研の社是である「技の術を研磨」をイメージし、磨けば光ると言われるダイヤをモチーフに設定。上半分を「未来・希望・成功」の3つの光、下半分を「実績・信頼・挑戦」の3つの道として表現しています。

本社 〒030-0113 青森県青森市第二問屋町3丁目3番15号
TEL 017-757-9980 FAX 017-757-9981
盛岡事務所 〒020-0837 岩手県盛岡市津志田町1丁目12番18号
TEL 019-658-9486 FAX 050-3424-3026
青森工場 〒039-2312 青森県上北郡六戸町大字下吉田字赤田15番地の1
TEL 0176-70-1088 FAX 0176-55-3909

株式会社 宇治園

ゆのみ一杯! スプーン一杯! 飲み込みが困難な方(軽中度の嚥下障害) 高齢者の方向け!



分包装タイプも新発売!! ※とろみパウダー入り粉末緑茶ですので「二手間軽減!」

本社 〒060-0032 札幌市中央区北2条東10丁目
TEL 011-241-5200 FAX 011-241-2330
青森支店 〒030-0131 青森市問屋町2丁目12-25
TEL 017-738-4811 FAX 017-738-4946